

地域に見合った工法提案

「昨年の2倍に当たる260人の参加をいただき、補修への関心の高まりを感じた」と話すのは、コンクリートメンテナンス協会の徳納剛会長。写真。同協会主催の「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム」のため、このほど札幌を訪れた。

同協会は1997年に広島市で発足。広島県は海砂による塩害、山間部の融雪剤による塩害、中性化、ASRによるコンクリート劣化が多い地域だったため、補修に携わる業者で立ち上げた。その後、コンクリート構造物に関するフォーラム開

催や大学・研究機関との共同研究を開始。2011年には全国展開のため一般社団法人化した。フォーラムの札幌開催は昨年について2回目。前回の開催を機に、道内でも



3社が協会に加入したという。今回は、参加者の3分の1が北海道開発局、札幌市など官庁関係者で、冬季の凍結融解の連続、大量の融雪剤散布などコンクリート構造物への負担

補修への高い関心感じた

コンクリートメンテナンス協会 徳納 剛会長

が大きい地域ならではの関心の高さを肌で感じた。徳納会長は「多くの工法の中から一つを選ぶのは難しいともいわれるが、私たちは単一工法の推奨ではなく、現地調査をしつかり行い、劣化数値を求めていけば、それに見合う補修方法がおのずと見えてくる」と協会の方針を強調。その上で、「置かれている気象環境、経済的環境、構造物の重要度などを考慮して工法を選択し、場合によっては複合的な補修も提案する。新しい協会なので、まずは活動を認知してもらうことが先決」とPRした。